2016-06-01　vol.157

「ヒロセ物語」を鏡に、我が社を振り返る。

荒んだ雰囲気・低い社員の意識・仕事に対する誇りが持てない組織を、見事に立て直した女性社長と、熱い社員達の「ヒロセ物語」に感動しました。

人は本質的に“輝くダイヤモンドの原石”なのだ**ということを証明しています。**
リーダーが、覚悟を決めて、根気強く、熱く訴えれば、いつかは社員に必ず伝わるものだ**ということがわかります。**
仕事に貴賤はないのです。世の為、人の為に役立つことは、素晴らしい仕事です。

社員教育には、外部講師を呼んだり、高額な研修に参加させたり、方法は数多くあります。しかしながら、費用対効果という点でも、本人の自覚という点でも、期待通り、本質的・根本的に改善されたという例は、極めて少ないのが現実です。
社員教育こそ、社長自らが、覚悟を決めて、圧倒的な時間とエネルギーを懸ける必要があるものです。**長い期間をかけて、じわじわと、漢方薬のように効いてくるものが本物です。瞬間的に変わる程度のものは、また瞬間的に元に戻ります。**
重要なことは、社長と社員が共に学ぶこと。**社長と社員が共に成長する意識を持つことです。**そもそも、外部依存で、我が社を変えられるなら、社長は不要です。

中小企業は、「ヒト・モノ・カネ」の、いずれも資源が限られています。
それだけに、全員の心を一つにして、難関に当たること。そして、その難関を越えていくことが、経営をする喜びにつながるのです。
社員を守ること（社員も含めて大きな家族であること）、社員と共に生きること、「経営の目的」が、まさに、ここにある**のです。**
知らず知らずに、「経営の目的」を忘れ、進むべき道を見失い、売上高や、利益率の向上に血眼になり、目的と手段が逆転し、外部からの評価に振り回されている会社が案外、世の中には多いものです。

ヒロセさんは、“社内木鶏会”という、社内勉強会を通じて、昨年「感動大賞（全国大会優勝）」という偉業を達成されました。

「一人のめざめは、百人に及び、百人のめざめは千人に及び、千人のめざめは社会全体に及ぶ」と、松下幸之助翁の言葉を引用して、致知出版の藤尾社長は、ヒロセさんの事例を、あちこちの講演会で話されています。

社長、「ヒロセ物語」はマンガですが、是非、お御社でもご活用下さい。

今月のポイント

社長の熱意に共鳴してくれる社員（仲間）を

何人創れるかが経営の醍醐味です。